
neve

amanojyaku

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

neve

【Nコード】

N6165C

【作者名】

amanojyaku

【あらすじ】

雪と雪に包まれる俺、幸せだった。

俺は今、バスの中にいる。

そう、お前に会いに行くために。

会いてえよ、雪。

そうだよ、会いたいから会いに行く。

それが今まで出来なかった。

お前が俺を受け入れてくれるか恐くて、いつも足踏みしてた。

でも、お前が俺のことどう思ったって、俺がお前を好きなことに変わりはねえから。

雪、お前はいつも気づいてないフリしてるけど、それって自分を守るためだろ。

雪は恐がりだからな、俺に言われたくねえかもしれないけど。

早く、早く。

雪に会いてえ。

雪はなんて言うだろう。

俺はなんて言うだろう。

「雪の日に生まれたから雪って名付けたんだって。単純だよね、うちの両親」

「そうだな」

お前にはぴったりの名前じゃなか。雪みたいに白くてはかなくて。掴んでも掴んでも消えていく、雪。ほんとお前びったりだよ。

それに雪って人の心躍らすじゃん。

なんか分かんねえけど楽しい気分になるじゃん。

お前もさ、そこにいるだけで人の心、わしづかみにするよな。

少なくとも、俺はもう苦しい限界だよ。

お前のせいでもう息も出来ないよ。

「私、雪って嫌い」

「なんで。お前だって雪じゃん」

「・・・そうだね」

あの時、雪は何を思ったんだろう。

自分の運命を知っていたかのような返事でもあったよな。

なんでだろうな。

さみい。

気が付くと、そこには真っ白な雪が降り積もっていた。
雪。

バスから降りて、雪の家に向かう。

いつもは雪の母親がバス停まで迎えにきてくれるが、今日はいなかった。

そうか。

今日で10年だもんな、雪。

雪、俺は10年たった今でもお前を愛してるんだよ。

バカだよな、俺。

でもよお、こればかりは仕方ねえんだ。

なあ雪、お前はこの10年間、何してたんだよ。

俺をほったらかしにして、どこで何してたんだよ。

早く俺のところに戻ってこいよ。

俺、一人で頑張っただろ。

雪の言うとおり、頑張っただろ。

もういいだろ。

その時、小さな雪が俺に舞い降りた。

気が付くと俺は、真っ白な雪の中に埋もれていた。

俺の上には天使みたいな雪が降り積もっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6165c/>

neve

2011年2月26日06時44分発行